

2022年11月15日

株式会社メディロム、2021年度決算を発表

東京都港区台場二丁目3番1号
株式会社メディロム

米国時間2022年11月14日株式会社メディロムは、米国会計基準に基づき作成された2021年12月期Form 20-Fを米国証券取引委員会（当局）に提出（ファイリング）いたしました。

当社は、M&Aにより取得した2つの企業に関する米国第三者評価機関による企業価値評価レポート、対象期間に取得した直営店舗に関する米国第三者評価機関による店舗価値評価レポート等の追加取得が必要とされた為、2021年12月31日に終了した事業年度に係る年次報告書（Form 20-F）を、SECへ事情説明の上で提出（ファイリング）期間の延長を認められておりました。この度、BakerTilly US, LLPによる米国会計基準により作成された連結財務諸表の会計監査が完了し、適正意見を得て当局に提出（ファイリング）したものであります。

なお、ビジネスの状況、財務諸表詳細、注記等詳細については、米国証券取引委員会に届出され当社HPにアップされているForm 20-Fをご参照いただきますようお願いいたします。

2021年連結決算の概要

	(単位：千円,%)	2021/12	2020/12	前年対比	
1	連結売上高	5,409,825	3,341,617	+2,068,208	+61.9
2	売上原価	3,994,414	2,912,667	+1,081,747	+37.1
3	販売費及び一般管理費	1,822,787	1,068,537	+754,250	+70.6
4	長期保有資産に対する減損損失	63,211	106,501	△43,290	△40.6
5	費用合計	5,880,412	4,087,705	+1,792,707	+43.9
6	連結営業損益	(470,587)	(746,088)	+275,501	-
7	営業外損益	56,106	119,399	△63,293	△54.0
8	税効果会計に伴う法人税等引当	576,250	(87,519)	+663,769	-
9	連結当期損益	(990,731)	(539,170)	△451,561	-
10	連結調整後EBITDA	(77,974)	(543,456)	+465,482	-



- **売上高**は 5,409 百万円となり、前期 3,341 百万円から 61.9%増となりました。この増加は、コロナ禍から回復した既存店舗（直営・F C）の収益改善、新たな収益モデルとして開始した投資家向け店舗販売売上高の計上、期中にグループ化した 2 社の収益貢献等によるものです。
- **売上原価**は、3,994 百万円となり、前期 2,912 百万円から 37.1%増となりました。この増加は、既存店舗の稼働率回復に伴う、セラピストに対する労務費並びに業務委託費の増加、並びに前期休業や時短営業で一部減額されていた賃料が、当期になり通常賃料に戻ったことによるものです。
- **販売費及び一般管理費**は、1,822 百万円となり、前期 1,068 百万円から 70.6%増となりました。この増加は、上場並びにその維持にかかる専門家報酬等の費用、期中で企図したフォローオンオフリングに係る費用、ストックオプション費用等を計上したことが主な要因です。
- これらの結果、**連結営業損益**は、△470 百万円となり、前期△746 百万円から、275 百万円改善いたしました。
- **営業外損益**は、56 百万円となり、前期 119 百万円から 54.0%減となりました。これは、コロナ禍において計上していた補助金が減少したことによるものです。
- **税効果会計に伴う法人税等**については、576 百万円となり、前期 87 百万円に比較して 663 百万円の負担増となりました。当社は繰延税金資産を計上しておりますが、コロナ禍による 2 期連続の営業損失という実情を鑑み、その回収可能性を保守的に検討した結果、繰延税金資産 771 百万円を全額取り崩し（引当て）、損失計上する事としたためであります。
- **調整後 EBITDA**は、△77 百万円となり、前期△543 百万円から 465 百万円改善いたしました。

マネジメントディスカッション

メディロム・ヘルスケア・テクノロジーズ CEO の江口康二は、以下の通り述べています。「2021 年 12 月期に達成した収益の大幅な改善、調整後 EBITDA の改善を嬉しく思っています。コロナ禍における影響で、繰延税金資産の多額の取り崩し（引当）を行いました。本業における損益の改善は著しいものがあります。直営店とフランチャイズ店の収益改善、新たに連結対象となった 2 つの企業の収益貢献、新たな収益モデルによる店舗販売売上高の計上が、当期の営業成績につながりました。2021 年も COVID-19 の影響がありましたが、全社が目標に向かって結束し、最悪の事態を克服し 1 年を終えることができました。2022 年は更に収益の大幅改善が視野に入っておりますので、一層の成長を持続させたいと考えています。」

株式会社メディロムについて

メディロムは健康管理サービスを目的とした「Re. Ra. Ku®」を中心に、全国 312 店舗(2022 年 9 月末現在)のリラクゼーションスタジオを展開しています。2015 年よりヘルステックビジネスに参入し、オンデマンドトレーニングアプリ「Lav®」を利用した「特定保健指導」や体質改善プログラムを実施しております。また 2020 年にはデバイス事業に参入し、世界初の無充電スマートトラッカー「MOTHER Bracelet」（旧称：「MOTHER Tracker®」）の開発に成功、2021 年より BtoC 向けに販売を開始、BtoB 向けにおいて既に受注を獲得しております。今後は、創業以来蓄積した生活習慣データを基にしたデータ解析事業へも事業領域を広げて参ります。

URL : <https://medirom.co.jp/>



将来の見通しに関する記述

本リリースに記載されている情報には、1995年米国私的証券訴訟改革法のセーフハーバー規定に基づく将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述には、当社が達成しうる、あるいは想定する経営成績、財政状態、事業戦略および計画、市場機会、競争的地位、業界環境および将来的成長機会に関する予想や期待が含まれる場合があります。また、将来の見通しに関する記述は、「見通し」、「見込み」、「予想」、「予測」、「計画」、「目標」、「期待」、「可能性」、「意図」、「想定」等の将来の出来事や結果の不確実性を示す用語によって示されることがあります。これらの記述は、将来の事象や当社の将来の財務状況に関するものであり、既知および未知のリスク、不確実性、その他の要因が含まれており、これらは場合によっては当社がコントロールできないものであり、実際の結果、活動水準、業績、成果に重大な影響を与える可能性があるため、過度に信頼しないようにお願いします。

将来の見通しに関する記述は、将来の事象に関する当社の現在の見解を反映したものであり、当社の事業、経営成績、成長戦略、流動性に関するこれらおよびその他のリスク、不確実性、前提事実の影響を受けます。当社は、理由の如何を問わず、これらの将来の見通しに関する記述を公に更新または修正する義務を負うものではなく、また、将来新たな情報が入手可能になったとしても、実際の結果がこれらの将来の見通しに関する記述で予想されたものと大きく異なる可能性がある理由を更新する義務を負うものではありません。

注) 本プレスリリースの原文は英語であり、本文は原文に基づき日本語意訳を行った参考資料となります。

お問い合わせ

株式会社メディロム IR チーム

E-MAIL : ir@medirom.co.jp